

(児童数配布)



絶対に遣ってはいけない言葉があります。

学校にはたくさん子どもたちが通ってきています。全員が仲良く楽しく過ごしてくれるのが理想ですが、実際にはなかなかそういきません。時にはもめ事も起こってしまいます。「〇〇さんのここがイヤだ。」「△△さんの××はやめてほしい。」、いろいろあります。子どもたちのこんな気持ち、否定はしません。でも、だからといって相手の存在そのもの、人格を否定する言葉は絶対に遣ってはいけません。例えば「死ね」「消えろ」「うざい」等です。

憲法でも、全ての人に対して、生まれながらにして自由で平等であることや、誰もが幸せに誇る権利を基本的人権として保障しています。(6年生の社会科で学習します。)この権利は、決して他人が侵すことはできません。このような理由から、上記のような言葉は明らかに人権侵害であり、場合によっては処罰の対象ともなります。また、残念ながら、このことが原因の悲しいニュースが報じられることもあります。

お互いに考えていることは様々ですので、行き違いが生じることもあるでしょう。でも、行き違った部分について伝えることはあったとしても、人の存在そのものを否定する言葉を遣ったり、その手段として暴力を使うことは絶対に許されません。学校としても、もしこのような事案があれば、しっかりと対処していきたいと思えます。

なお、余談ですが、多くの子どもたちが大好きなゲームの中には、このような言葉が頻繁に出てくるようなものがあるようです。大変人気があり、事業者にとっては大きな収益もあがるのでしょうか、子どもたちの健やかな心の成長ということを考えると、何とかならないものかなと思えます。各ご家庭でも話し合っただけであれば幸いです。



こんなのでイヤです。



みんな笑顔がいいですね。

なお、本校では、全クラスでこの点について確認するため、次の文章を生活指導担当・竹谷が作成、各担任が読み上げ、指導を行っております。

「言葉」

この中に、見た目も性格も全く同じ人はいますか。そんなことはありません。見た目はもちろん、好きなことやきれいなこと、得意なこと苦手なこと、性格、みんな違いますね。1人ひとり違って当たり前なのに、みんなと違う、自分と違うからといって、なぜかその人を傷つける言葉を遣ってしまう人がいます。「しね」「きえろ」「うざい」などの言葉です。そんな言葉を言われた人は、どんな気持ちになりますか？決していい気持ちにはなりませんよね。そんな言葉を遣って人を傷つけることは、許されません。ゲームや遊びの中だとしても同じことです。もし、遣ってしまった人がいるなら、その人は、この話を聞いた今から、遣わないようにしましょう。

みんなが気持ちよくすごせるように、おたがいに気をつけましょう。

マスク着用から考えること



テレビなどの報道によると、国としては概ね脱マスクの方向に向おうとしていることが伺えます。(立場により少しずつ見解が違いますが。)本校でも、マスク着用の緩和について子どもたちに指導を行いました。「マスクを外しても良い、あるいは外さなければならない場面はあるはず。考えてみましょう。」という内容です。

ただ、「その判断が子どもたちにできるのか？」と思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、私は「判断させたい。」と考えています。例えば、子どもにカサを持たせ「雨が降ればカサを差しなさい。」と伝えます。おそらく1年生の子どもでも、雨が降ってくればカサを差しますし、雨がやめばカサを仕舞います。室内でカサを差している子はいません。自分で判断しているわけです。マスク着用も同じです。「マスクが必要な場面があれば着用する。」これ、できないことはないと思えますし、させてみたいですね。

大人の世界の話ですが、「指示されるまでやらない。指示されたことしかやらない。」という人がいます。これでは、厳しいようですが、その人に対する評価には限界があります。「指示される前にやる。指示された以上のことをやる。」つまり、自分で考えて行動する人、こんな人がどの職場でも高い評価を得ることができます。

子どもでも同じだと思います。何から何まで細かく指示を入れるのではなく、可能なことについては子ども自身に考えさせる場面を作る、その中で時には失敗することもあるかもしれませんが、しかし、その失敗から学ぶのです。このようにして、子どもたちは「生きる力」を身につけていくのだと思えます。

マスク着用から少し大きな話になりましたが、以上が私の考えです。